

静岡県試験研究10大トピックス（環境衛生科学研究所）

<p>タイトル</p>	<p>薬が効かないインフルエンザウイルスの検出方法の開発</p>	<p>研究課題名 期間</p>	<p>静岡県における抗インフルエンザ薬耐性株の出現状況に関する疫学的解析 (H27～28)</p>
<p>所属</p>	<p>環境衛生科学研究所 微生物部ウイルス班</p>	<p>補職名 研究者名</p>	<p>主査 酒井悠希子</p>
		<p>問合せ先</p>	<p>054-245-0223</p>
<p>研究概要</p>	<p>【背景・ねらい】 当研究所は、地方衛生研究所として、インフルエンザウイルスの流行把握を行っている。インフルエンザウイルスは形を変えやすく、薬剤に対する耐性（薬が効かなくなること）を獲得することがある。インフルエンザウイルス治療薬は、タミフルを始め4種類が販売されているが、薬剤耐性を持つウイルスを流行らせないためには、耐性が獲得されていない薬剤を選択し、治療することが必要となる。しかし、薬剤耐性を調べる検査は、検査コストや操作方法などから、一部のウイルスと薬剤の組合せを除いて、地方衛生研究所では実施に至っておらず、地域ごとの薬剤耐性ウイルスの流行把握ができていない。</p> <p>【成果の内容・特徴】 静岡県立大学と広島国際大学が共同開発した新規蛍光基質の発色を用いた薬剤耐性ウイルス検出法を応用し、県立大との共同研究により地方衛生研究所で実施できる検査条件の設定を行った。これにより、一度に多数のウイルス検体の薬剤耐性を短時間でかつ安価で簡便に判定することに成功した。</p> <p>【成果の活用・留意点】 本検査法を使って、本県のインフルエンザウイルス薬剤耐性獲得情報を速やかに情報発信する。 また、本法を地方衛生研究所の研究会や関係学会で発表し、インフルエンザウイルスの薬剤耐性スクリーニング法として全国に普及させる予定である。</p>		

市販されているインフルエンザ治療薬



タミフル(経口薬)



リレンザ(吸入薬)

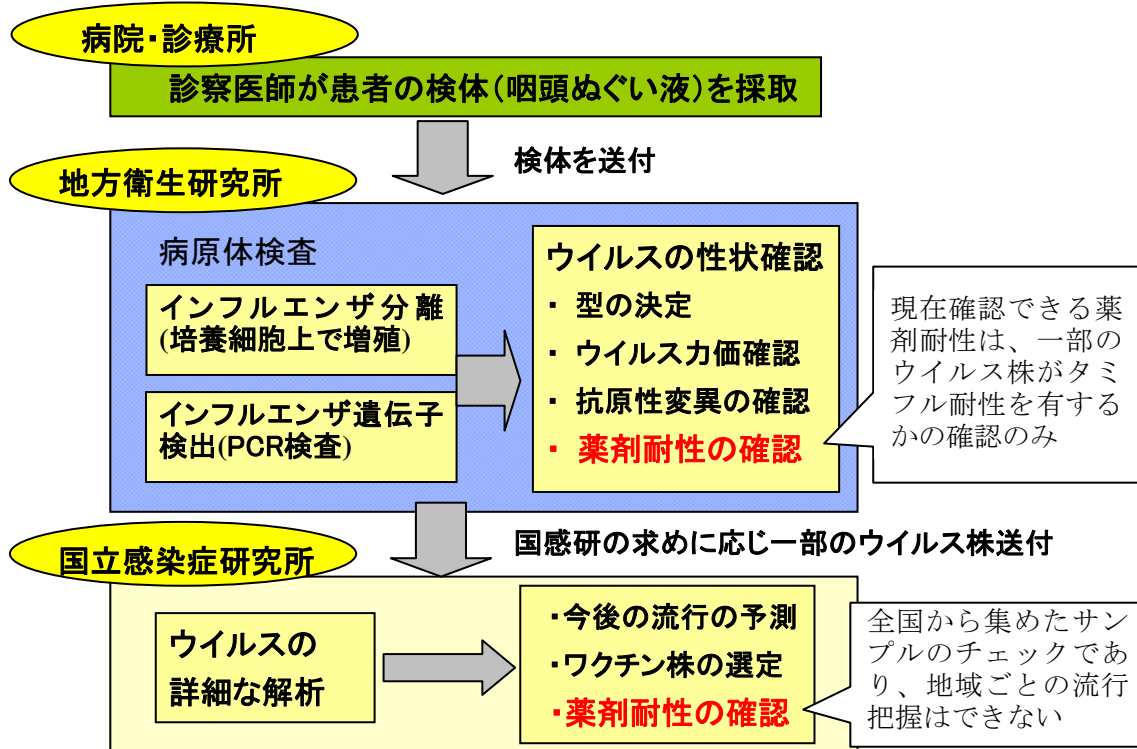


ラピアクタ(点滴薬)

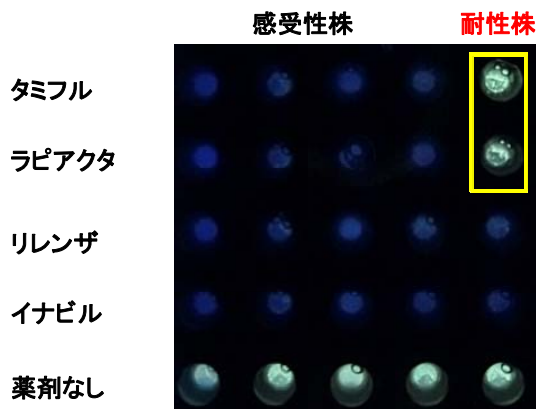


イナビル(吸入薬)

インフルエンザ検査の流れ



新規蛍光基質の発色を用いた薬剤耐性インフルエンザウイルス検出方法



- 一度に多数のウイルス検体を短時間でかつ安価で簡便に検査できる。
- 4種の薬剤に対する耐性を検査できる。

左図の耐性株(ウイルス検体)は、タミフルとラピアクタに耐性があることを示す。

本法により、地域ごとの薬剤耐性ウイルスの監視・調査が飛躍的に進む